

令和 6 年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書  
 “Grant for International Symposium with Academic Partner University in FY 2024” Report Form

2024 年 9 月 30 日

実施責任者 職・氏名 Responsible faculty member(Title, Name)	准教授 鍛治 怜奈			
シンポジウム名 Symposium title	結晶成長・分析・計算における日台共同ワークショップ Taiwan-Japan Workshop on Crystal Growth, Analysis and Calculation			
実施期間 Date, Time	2024 年 9 月 12 日～2024 年 9 月 14 日			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	北海道大学と学術交流協定校である国立陽明交通大学 (NYCU) の教員を中心として 33 名の日本の台湾の研究者 (内 5 名は北海道大学, NIMS, NYCU の博士後期課程の学生) が参集, 9 月 12 日から 9 月 14 日の 3 日間にわたって, 小樽港マリーナの会議室 (小樽市) にて結晶の成長・解析・計算に関する研究成果の報告を行った. 詳細はプログラム (別添 1) 参照. また, 研究者間の交流を深めるため, 9 月 13 日は小樽市内で夕食会を開催した.			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 33 人/Participants			
	内訳/Details 参加者リスト (別添 2) を参照			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	9		日本	北海道大学
	4		日本	物質材料研究機構 (NIMS)
	20		台湾	NYCU など
シンポジウム開催による成果 Outcome	本シンポジウムには北海道大学と NYCU 以外にも, 物質材料研究機構 (NIMS), 国立台湾大学, 国立成功大学, 国立中興大学, 国立中央大学, Academia Sinica など様々な機関に所属する研究者が参加し, 会期中は「結晶」に関する幅広いトピックスについて活発な議論を行った. また会期後も, 北海道大学内の研究施設に参加者が来訪するなどの交流が続いている. 以上より, 共同研究の機会を提供し, 日台研究者間のネットワークを構築・強化するというシンポジウムの目的は達成されたと言える.			
今後の展望と課題 Future prospects and issues	ワークショップの共同開催を通じて, 応用物理学部門 (北大) と電子物理系 (NYCU) 間の交流再開のきっかけが作られ, 来年度以降も同様の会議を日本と台湾の両国間で続けることを確認した (来年は 5 月に台湾・宜蘭市での開催を予定). 一方, 両校の学生交流を促すこともワークショップの目的の一つとしていたが, 会場の収容人数や場所の事情から, 学生の参加者が 5 名と少なかった点は課題である. 次回は会場の選定条件 (市内, ポスター会場を備えていることが望ましい) の見直しに加え, あらかじめアルバイト代などの人件費を見込んで申請を行い, 学生が参加しやすい環境を整えたい.			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant	学外開催の場合, 会場の選定 (会場の設備, 料金, 収容人数, 交通アクセスなど) に苦慮する場合があるので, これまでの開催実績を閲覧できると企画時の参考になるかと思えます. また近年, 大学生協のサービスが縮小していることもあり, 会期中の食事の手配 (今回は特に, コーヒーサービス) に苦労しました. 可能な範囲で構わないので, 弁当や飲み物の配達, 数 10 名規模の懇親会に対応できる地元の店やサービスを紹介してもらえると助かります.			



集合写真



ワークショップ中のスナップショット



NYCU 電子物理系からの記念品授与